

【エッセイ部門・PHP エッセイ賞】

吾輩は猫の同居人である

兵庫県立小野高等学校 第1学年 池町 美花

吾輩は猫の同居人である。名前はもう有る。どこで生まれたか見当がつくどころかはっきりと知っている。

そんなことはどうでもいい。とにかく、私は猫の同居人なのだ。飼い主ではない。初めは、「吾輩は猫の飼い主である」だったのだが、母親に訂正された。否定などしない、同居人のほうかなりしっくりくる。

ウチの猫の名前は「乱(らん)」。名付け親であるという兄は「蘭」のつもりだったらしい。しかし、障子や襖を破りまくるなど、乱れていたため勝手に変更となった。ちなみに、食生活も乱れている。単刀直入に言えばデブだ。避妊手術をしたということも関係している(避妊手術をすると太りやすくなる)とは思いますが、それを言い訳にできないくらいよく食べる。避妊手術の際、既にお腹が大きかったため、妊娠している可能性がある、と検査をしたのだが、すべて脂肪だったというエピソードもある。皆さんお分かりいただけたらうか。そう、小さい頃からずっとデブなのだ。やはり避妊手術は言い訳にできない。ただの食べ過ぎだ。そういえば、普通の猫の一日分の食事量が、ウチの猫の一回分食事量だったというエピソードもある。

おっと前置きがかなり長くなってしまった。申し訳ない。ここからが本題だ。

私は猫と喋りたい。話すのではない、喋るのだ。堅い話ではなく、ゆるりと雑談がしたい。猫界にコンプライアンスというものが存在するのであればこっぴどく叱られるだろうが、やっぱりウチの猫はデブだ。別に悪口ではない。が、そろそろ身体への負担が心配になる。人間でいえば六十歳くらい。高所へ跳ぶまでの踏ん張りの時間が日に日に長くなっている気がする。大丈夫だろうか。よっこらしよではない。よっこらよっこらどっこいしょくらいだ。

こんなことを書いている私だが、実は他人事、他猫事ではない。肥満ではないが、食欲は負けていない。だから、「デブやなあ。」と言えば、「お前もやろ。」と言われていい感じがしてならない。でもそれはあくまで想像。本当はどのように思っているのか、喋って確かめたい。

もちろん、確かめたいことは他にもある。「ずっと寝てらっしゃいますけど、何を考えているんですか。」というようなことは尋ねてみたい。ウチの猫は外に出ていい。トイレ等は外でしてくる。それは良いのだが、ウチの猫はずる賢い。少しでも外に出ればエサがもらえんと思っているのだ。最短記録は三分。そして寝る。食べて、寝る。ほぼ一日中寝ているときもあるが、何を考えているのだろうか。知りたいなあ、気になるなあ。

あと気になるのは、空白の一年間だ。なんとウチの猫は外に出たきり、一年かそれ以上帰

ってこなかったことがあった。事故でもあったのか、そう思ったが、再会の日は突然だった。早朝、ランニングをしていた父のもとへ寄ってきたらしいのだ。薄汚れた、痩せた姿を想像する方もいるだろう。しかし実際は艶のある毛並みにふくよかなボディ。なんじゃそりゃ。たぶんどこかで大切に飼われていたのだろう。首輪などはしていないので、野良猫と勘違いされたのかもしれない。大事にされていたのなら嬉しいが、なぜ突然帰ってきたのか。永遠の謎だ。

喋り合いたいことは山ほどある。でも、想像を膨らませるのが楽しいのかなと思うこともある。真実は知りたいが、謎のままでも面白い。これは悩むところだ。けれどやっぱり喋ってみたいが勝つ。一日限定とかならいいかもしれない。

本題の話は終了だ。では、同居人から見えている現在のウチの猫の状況を書き留めておこう。

首を振っている扇風機の前に座布団が二、三枚重なっている。その上にウチの猫。丸まっているが、伸びている。右耳が座布団からはみ出ている。寝ている。

——書き忘れていた。ウチの猫は三毛猫である。白と黒と茶。鼻が黒。あと、好きな食べ物は海苔と魚。

状況報告はこのくらいにして。最後にウチの猫、乱ちゃんにふたつ。

一緒に寝てくれると嬉しいです。そして、どうか長生きしてください。

寝ている君の横で思うことを思うがままに書き連ねている同居人より。